

# 伝言板

No.33(R 2.4)



NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構

## もくじ

第17回 理事会・通常総会……………1	「みなとまち活性化イベントの助成事業」の募集… 11
みなとパネル展……………4	「着ぐるみ貸付事業」の紹介…………… 11
第16回 みなと座談会……………5	令和2年度 役員・事務局・支部体制…………… 12
令和元年度 函館港大規模地震・津波総合防災訓練……………9	事務局連絡方法…………… 12
北海道開発局防災エキスパート(港湾・空港・漁港)…………… 10	

## 第17回 理事会・通常総会

第17回理事会・通常総会は、令和2年2月19日(水)北海道立道民活動センター(かでの2.7)で開催しました。理事会は定数13名の内、出席者9名(書面表決者4名)、通常総会の出席者は個人会員162名、団体会員59団体の内、委任状提出者を含めて208名が出席しており会場には94名に出席していただきました。

通常総会に先立ち、NPO法人栗林定正会長から「平素より、わたくしどもの事業活動に格別なご理解とご協力をいただいていますことを心より厚くお礼申し上げます。

当法人は、地域社会の生活と産業活動の場である港の効果的、効率的利用の促進と港を核とした街づくりに係る広報事業、港と暮らしに係る教育文化事業、防災・災害復旧に関する事業を行うとともに、これらの活動を行う団体などへの支援を行っているところであります。現在取り組んでいる主な事業は港への理解と利用促進に係る広報活動として、みなと見学会、みなとパネル展、みなとサポート事業などを実施しています。みなと街づくりの支援事業としてみなと座談会を開催し、さらに港湾、空港、漁港の防災業務及び災害復旧に係る広報支援事業として防災エキスパートの研修会、大規模災害の発生に備えた施設点検等の実施訓練に取り組んでいるとこ

ろであります。

本日の通常総会では、令和元年度の事業報告及び令和2年度の事業計画などについてお諮りしますのでご審議のほどよろしくお願ひします。むすびにあたりまして会員各位のご健勝とご活躍を祈念します。」と挨拶がありました。

ご来賓として出席していただきました、北海道開発局港湾空港部長魚住聡様からは「北海道みなとの文化振興機構第17回の総会が開催されることを心からお喜び申し上げます。また会員の皆さま方におかれましては日頃から北海道開発行政、特に港湾行政に多大なるご理解とご支援をいただいていることに感謝いたしております。貴協会はみなとの利用促進・みなとを核とした街づくりとして、教育文化活動や広報事業に取り組んでいただいております。私どもの事務所で開催されるイベントや港まつりでパネル展や人的支援をしていただいたり、シンポジウ

ムみなとの協賛をいただいたり、女性ネットワークを長きにわたって支えていただいていることに感謝申し上げます。もう一点大事な役割を担っていただいている防災関係について、防災エキスパートは今年度岩内の総合防災訓練に参加し協力をいただき、一昨年は胆振東部地震で初めて防災エキスパートとして出動していただき感謝しております。防災エキスパートは今年12月に9名を新たに認定しましたので、この方々の活躍されることを期待しております。最後に港湾関係の更なる振興発展に向けまして産学官一致団結しまして、皆様方の一層のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに皆様方のご健勝と港の文化振興機構の益々のご発展を祈念します。」とご挨拶をいただきました。

議案の内容について下記とおり承認されました。

### 第1号議案（令和元年度事業報告）

1 定款の事業名 港への理解と利用促進に係わる広報活動及び支援

(1)みなとサポート業務

みなと見学会 3港（6日間）、

パネル展 2港（3日間）

(2)みなとパネル展

令和元年11月27日(水)「ザ・シンポジウムみなと in 小樽」の開催に協賛して小樽市民センターで開催

(3)広報誌「伝言板」の発刊

31号を平成31年4月、32号を令和元年11月に発刊

(4)着ぐるみ（「ぼーとん」くん・「べいくりん」ちゃん）貸付事業（有償）

イベントなどで8件の利用

(5)記念グッズの配布（無償）

ノート、ボールペン&マーカー、着ぐるみシールを14箇所に配布

2 定款の事業名 港湾・空港・漁港の防災業務及び災害復旧に係る活動・支援

(1)防災エキスパート支援

令和元年6月26日(水) 北海道開発局 TEC-FORCE 研修（5名参加）

令和元年7月17日(水) 北海道開発局 TEC-FORCE 研修（5名参加）



理事会



会長挨拶



来賓挨拶



総会

令和元年 7月 27日(土) 岩内港大規模地震・津波総合防災訓練 (4名参加)

令和元年 10月 27日(日) 函館港大規模地震・津波総合防災訓練 (3名参加)

令和元年 12月 9日(月) 北海道開発局防災エキスパート (港湾・空港・漁港) 認証式 (9名)

令和元年 12月 9日(月) 北海道開発局防災エキスパート (港湾・空港・漁港) 研修会 (29名参加)

3 定款の事業名 まちづくりの推進を図る活動等に関する情報収集

(1)みなと座談会

令和元年 11月 6日(水) 苫小牧市で開催 (北海道女性ネットワーク会員 12名、行政関係者 7名 (うち特別講演者 1名)、当機構 11名参加)

(2)ネットワーク強化

令和元年 6月 12日(水) 当機構の支部長会議 (19名参加)

(3)情報収集

4 定款の事業名 その他、目的を達成するために必要な事業

(1)助成活動

令和元年度は一般分 10 事業、特定分 6 事業に助成

## 第 2 号議案(令和元年度収支決算報告並びに監査報告)

## 第 3 号議案 (令和 2 年度事業計画)

1 定款の事業名 港への理解と利用促進に係わる広報活動及び支援

(1)みなとサポート業務

(2)みなとパネル展

(3)広報誌「伝言板」の発刊、ホームページの充実

(4)着ぐるみ(「ぼーとん」くん・「べいくりん」ちゃん)貸付事業 (有償)

(5)記念グッズの配布 (無償)

(6)港への理解に係わる情報収集及び調査研究

2 定款の事業名 港湾・空港・漁港の防災業務及び災害復旧に係る活動・支援

(1)防災エキスパート支援

3 定款の事業名 まちづくりの推進を図る活動等に関する情報収集

(1)みなと座談会

(2)ネットワーク強化

4 定款の事業名 その他、目的を達成するために必要な事業

(1)助成活動

## 第 4 号議案 (令和 2 年度収支予算計画書)

## 第 5 号議案 (役員選任について 敬称略)

下記の方が承認されました。

・理事 眞田 仁 (新任)

## 特別報告

通常総会終了後、北海道みなとまちづくりネットワーク会長で、女性みなと街づくり苫小牧代表の大西育子様より「北海道みなとまちづくり女性ネットワークの軌跡」と題して報告をいただきました。報告では、みなとまちづくり女性ネットワークの生い立ちや活動の目的、令和元年度の当機構よりの助成事業を含めた各地域の活動内容がパワーポイントにて紹介されました。



特別報告

## みなとパネル展

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構は、一般市民に「みなとの役割、暮らしとの関わり合い」を広く理解していただくため、毎年「ザ・シンポジウムみなと（ザ・シンポジウム みなと実行委員会）」の開催に協賛して、実行委員会の支援を得て「みなとパネル展」を企画、開催しています。

令和元年度の「ザ・シンポジウムみなと in 小樽」は、令和元年に開基 150 年・開港 120 年を迎えた小樽港において、「開基 150 周年・開港 120 周年 ～船客万来・小樽港が目指す機能的な港湾～」をテーマに令和元年 11 月 27 日（水）14 時から小樽市民センターで開催されました。

パネル展は、小樽市民センター 1 階ロビーで小樽開発建設部のパネル展に併設されたコーナーでの同時展示となり、シンポジウムに参加（400 名）された方々に見ていただきました。

パネル展の内容は、当機構から「NPO 活動状況の紹介と設立までの経緯」などのパネル 2 枚、小樽港第 3 ふ頭に同時着岸した 2 隻のクルーズ船のパネル 2 枚、「北海道の港湾の整備状況」のパネル 12 枚を展示しました。小樽開発建設部からは小樽港を紹介したパネル 5 枚が、小樽市からは写真で見る小樽港の歴史のパネル 12 枚が展示されました。

今回のパネル展開催にあたり、北海道開発局港湾空港部、小樽開発建設部、小樽港湾事務所の皆様のご理解とご協力に厚くお礼申し上げます。



# 第16回 みなと座談会

当機構は平成16年度から、みなとまちの地域づくりについて考える「みなと座談会」を女性の視点から考え活動している「北海道みなとまちづくり女性ネットワーク」と共催し、各地域で意見交換会を開催しています。

1回目の函館市から始まり、釧路、室蘭、稚内、広尾、留萌、苫小牧、函館、室蘭、紋別、釧路、札幌、稚内、室蘭、留萌と続き、令和元年度の第16回は苫小牧市で、11月6日水曜日午後3時30分からホテルウイングインターナショナル苫小牧で開催しました。

## 座談会テーマ

昨年に引き続き「わくわくするみなとまちづくり」をテーマに、全道各地で活躍されている女性ネットワークの方々から令和元年度の活躍について報告していただき、苫小牧港管理組合、北海道開発局港湾空港部、室蘭開発建設部の行政参加者を交え、「各地の活動の継続方法、課題」や「新たな取組」などについて意見交換をしました。

## 座談会参加者

### 司会

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構  
理事長 中村 信之  
北海道みなとまちづくり女性ネットワーク  
北海道みなとまちづくり女性ネットワーク会長  
女性みなと街づくり苫小牧 代表 大西 育子  
女性みなと街づくり苫小牧 東城 静江  
女性みなと街づくり苫小牧 清水志津子  
女性みなと街づくり苫小牧 山口加津子  
苫小牧漁協女性部長  
女性みなと街づくり苫小牧 鳥越 康子  
苫小牧商工会議所（女性部長） 成田富貴子  
苫小牧観光協会（理事） 山田美恵子  
みなとまちづくり女性ネットワーク室蘭  
代表 立野 了子  
みなとまちづくり女性ネットワーク・オホーツク  
代表 竹内 珠己  
釧路港おもてなし倶楽部  
副実行委員長 金子ゆかり  
稚内のみなとを考える女性ネットワーク

代表 岩本 明子

NPO 法人マリンネットワーク

理事長 片石 温美

### 行政機関

苫小牧港管理組合 施設部長 道脇 正則  
北海道開発局港湾空港部港湾計画課  
調査係主任 今尾 洋平  
室蘭開発建設部 築港課長 早川 篤  
室蘭開発建設部苫小牧港湾事務所  
所長 苫米地庄吾  
室蘭開発建設部苫小牧港湾事務所  
計画課長 松田 斉久  
室蘭開発建設部苫小牧港湾事務所  
調査設計係員 村上 嘉唯

### 事務局

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構  
事務局 福岡 康宣 外9名

## 座談会概要

始めに、主催者を代表して当機構中村理事長から、みなと座談会の過去からの経緯や趣旨の説明と女性ネットワークメンバーの熱心な取組への敬意と感謝を表すとともに、今回特別講演をお願いした苫小牧港管理組合 道脇正則施設部長へお礼を述べました。

来賓の室蘭開発建設部苫小牧港湾事務所長苫米地庄吾様から「北海道開発局としても、みなとまちづくり苫小牧や苫小牧港管理組合を含めた多くの方々と、より一層みなとを市民と近づけ、親しめるよう尽力していく」とのご挨拶をいただきました。

特別講演では、「北海道の未来を担う苫小牧港に

ついて」と題して苫小牧港管理組合施設部長道脇正則様より動画による苫小牧港の紹介と、苫小牧港の歴史、現在の姿、データで見た苫小牧港と苫小牧港の役割、将来構想、苫小牧港の課題についてご講演をいただき、引き続き中村理事長の司会により本座談会に入りました。

各地域の女性ネットワーク代表からは、令和元年度の代表的な活動内容を報告していただきました。最初に苫小牧の大西代表から、「クルーズ船へのおもてなしの話があり、苫小牧港は大型の飛鳥Ⅱは入船ふ頭に入港し、それ以外は北ふ頭（キラキラ公園）に入港、今年は日本丸が2回入港して、みなとウォークと兼ね合わせていろいろな行事を行いました。また、新たに国際信号旗を作成しておもてなしもしました。Sea級グルメ全国大会 in 佐渡にも参加して、優秀賞を受賞しました。最後にみなとでコンサートをする際に楽器が濡れない施設があれば」とお話をされました。

室蘭の立野代表からは、「今年は新しいことが実現しました。女性ネットワークとして森蘭航路に目を向けて、森町棧橋跡地に行って歴史を学んできて、いかめしも森町が発祥の地であることがわかりました。第8回室蘭鉄人舟漕ぎ大会の時、森町からいかめしを仕入れて販売しました。それから森町も舟漕ぎ大会に参加して頂き、他港との交流が出来たことが新しいことで、来年は桜を見に森町に行こうという構想があります。港と港の交流ができたことが室蘭としては大きな実績です」と話がありました。

紋別の竹内代表からは、「昨年の台風の中のSea級グルメに参加して頂き、食べて協力していただき、ありがとうございました。おかげでグランプリをとることができました。ポート・オブ・ザ・イヤーもみなさまの力を借りて日本一になることができました。女性ネットワークが主催していますガリンコタワーからの『煌めき』と『祈り』の発信ということで『イルミネーション点灯事業』を行っており、これが評価され土木学会北海道支部地域活動賞を受賞しました。また日本酒でまちゼミを開催しましたが、女性の方にも興味を持っていただきました。最後に、外国人実習生が徒歩で街から街へ歩いているので、バスの乗り方教室を始めました。このおかげ

で、イオンと市の包括提携ができ、バスに乗っても高齢者のためにもなりますポイントカードにポイントが付与されることになりましたし、最終的には買い物などをイオンと提携でき、市の福祉の関係などもポイントを利用しながら広めていけることに寄与しました。この辺のことが新しく一番の活躍だった」と報告がありました。

稚内の岩本代表からは、「女性ネットワークのメンバーが6名しか居ないということで、年間活動をするには事務所、築港課、市の港湾課の協力が得られていることで活動が成り立っていると毎年実感しています。一年の活動としては、夏場の花壇整理と北防波堤で開催しているみなとコンサートと客船入港時のセレモニーに参加、秋はSea級グルメにも参加する協力体制にしました。冬はイベント広場での市民が参加できる「かまくらで遊ぼう」が年間の活動です。大きな活動は、みなとコンサートです。市民が足を運んでいただけるような雰囲気作りが大切と実感しています。年々、市民の参加は増えており、私たちの狙いにはまってくれていると思っています。みなとコンサートは夏場に開催されています。稚内には利札航路があるので離島のオアシスと太いパイプを結ぶような何かができないかと利尻の方と話をさせていただき、イベントを成功させるため考えていきたい」と抱負を述べていました。

釧路の金子実行委員長からは、「釧路みなとオアシス協議会が立ち上がり、令和元年度第1号として認定を受けました。開発建設部の皆様やNPOの皆様にも多大なご協力をいただいたことに、お礼を申し上げます。ありがとうございました。その中で、おもてなし部会を作りまして、今まで10年間続けてきました釧路港おもてなし倶楽部の活動をおもてなし部会に引継ぎ、私が釧路みなとオアシス協議会のおもてなし部会の部会長を拝命しました。

5月1日の認定にあたりましては眞田港湾空港部長にもお越しいただき、釧路市長は所用でこれないため、副市長と会長が認定式に来て、認定書などを授与していただきました。その中で、私たちが嬉しかったのは、伴副市長が港湾の計画などを行った方で、港湾を知っている人が副市長になられて授与されたことについて皆で喜びを分かち合いました。

これまでは、おもてなしとすることでクルーズ船の関係事業をメインにしてきましたが、これからは港を核としたまちづくりを考えていくため、観光とも連携をしていきたいと考えています。また、釧路のまちを港まちと分かっていながら港が遠く感じられ、市民に親しみが今一つ感じられない部分も課題としてあり、そうしたものをみなとオアシス協議会の方で少しでも改善していけるように活動をしていきたい」と今後の希望を述べていました。

マリネットワーク片石理事長からは、「苫小牧漁協は、水産を核とした魅力ある漁港区づくりを目標に2014年に「苫小牧港漁港区将来ビジョン21」を作り、このなかで水産、防災、観光をテーマに様々な取組をしていますが、観光のところで水産の消費拡大について女性部が関わっているので紹介をします。水産物の取り扱いが衛生部分で課題があることから、水産物の鮮度保持と作業環境の改善から平成29年に屋根付き岸壁ができ、それと併せて水産物の流通拡大や消費拡大に向けてさまざまな活動を行っています。2013年には、Sea級グルメが苫小牧港で開催されホッキモーで参加しまして、2019年Sea級グルメin紋別では、ホッキカレーで参加し、今年には佐渡で開催されたSea級グルメでホッキギョウザで参加しました。先月行われたホッキまつりでは、漁港区を会場として、周辺のプラット市場などにも協力していただきながら3万9千人が集まりました。苫小牧港は交通網が優れていることがあり、それを活用して漁港区もみなとの活性化の活性化の役割を担っていききたいということです。ご当地グルメ開発にも参画し、都市部でのPRイベントも行っています。将来の夢として、漁港周辺にホッキ料理店を作り、苫小牧港産の水産物を提供し、新鮮でおいしく安価な料理を食べてもらうことを実現したいと思っています。農水省の補助で作った施設、浜の交流館を活用して食堂的なものがないか検討している」など苫小牧漁協女性部が港の活性化にどのように関わっているかを紹介していただきました。

本日、函館の折谷さんが地元のイベント参加で欠席されていますが、資料が届いていますとのことで大西会長から活動報告がありました。

室蘭開発建設部早川築港課長より、紋別港の土木

学会北海道支部地域活動賞の受賞の経緯について質問があり、竹内代表から「既存のウォーターフロント施設を活用して活動しているのですが、よくわからず「ラッキー」といった感じでした。受賞理由を後で聞いたら流水まつりの時期に毎年イルミネーション点灯式を行っており、これが評価されたということでした」との回答がありました。

この後、女性みなと街づくり苫小牧の方々から発言を求め、東城さんは、紋別港のイベントネーミングに感心したこと。清水さんからは、クルーズ船のおもてなしには花壇を綺麗に植えることが大切。山口さん（漁協女性部長）からは、Sea級グルメは第1回の広島から参加しているが広島は、給排水施設や電気があったが、苫小牧で開催されたSea級グルメでは排水や電気がなく、港の整備の違いを感じたこと。また、ホッキなど地元産を安くおいしく食べてもらいたく街と一緒に取組みたいが商業施設があるので考え方が違うことがネックになっていること。山田さん（苫小牧観光協会）からは、各地の取組で同じことを長く続けることが港の下支えになっているのだと感心したこと。とそれぞれの方の発言がありました。

このほか、海外からの客へのおもてなしや配慮はどのようなことをされているかとの質問に対して各地の取組みは、日本の文化を伝えるお茶会や着物の着付け、地元の高校生による英会話や通訳が行われているとのことでした。

最後に活動を続ける上での苦勞などについて各地の代表者から意見を求めました。

行政の参加者からは、テーマがわくわくするみたとづくりですが、わくわくに加えていきいきという言葉も付け加えていただき、元気で活気の溢れる取組みをしていただきたいとあり、苫米地所長からこのような活動を継続することが難しいと思うので皆さんの力のもとで活動を引き続きやっていただきたいとありました。

最後に司会者から、皆様のご協力で大変内容のある座談会を終えることができましたと挨拶があり、2時間30分の座談会を終了しました。

翌日は、北海道みなと街づくり女性ネットワークの総会を午前9時から苫小牧港湾事務所の会議室で

開催しました。終了後、苫小牧港湾事務所の港湾業務艇「はやぶさ」で苫小牧港内の港湾施設および利用状況を視察し、最後に女性みなと街づくり苫小牧

の山口さん（漁協女性部長）の計らいで地元産の美味しい料理の提供を受け座談会のメンバーで舌鼓を打ちながら堪能しました。



第16回 みなと座談会



苫小牧港湾事務所長 来賓挨拶



各地域の活動報告



苫小牧港管理組合施設部長の特別講演



漁協女性部より地元産の美味しい料理の提供

## 令和元年度 函館港大規模地震・津波総合防災訓練

北海道開発局と北海道開発局函館開発建設部及び函館市(港湾管理者)主催による「函館港大規模地震・津波総合防災訓練」が10月27日(日)10時30分より函館港港町埠頭A岸壁(-14.0m)で開催した。

参加した機関・団体は、第一管区海上保安本部函館航空基地、函館海上保安部、陸上自衛隊北部方面隊第11旅団、海上自衛隊函館基地、函館西警察署、函館市消防本部、(一社)日本埋立浚渫協会北海道支部、北海道港湾空港建設協会、(一社)日本海上起重技術協会北海道支部、全国浚渫業協会北海道支部、(一社)海洋調査協会、(一社)港湾技術コンサルタント協会、北海道ポートエンジニアリング協会、(一社)函館建設業協会、函館測量設計協会、北海道開発局港湾・空港・漁港防災エキスパート、みなとまちづくり女性ネットワーク函館、函館港湾事務所工事安全連絡協議会の18機関・団体。

訓練目的は、三陸沖北部を震源とする大規模地震、及びこれに伴う津波の襲来による災害によって、港湾施設に被害が発生した場合の港湾機能の早期回復などに備え、関係機関との連携強化ならびに防災意識の高揚を図る実動訓練の実施である。

訓練は午前10時30分頃に、三陸沖北部を震源とするマグニチュード8.3の地震が発生し、函館市で

震度6強の強い揺れが発生し、地震発生直後に大津波警報が発表され、最大8.9mの大津波が襲来。その後、津波注意報に切り替わり、津波注意報が解除されたとの想定で実施された。

訓練は、開会式に引き続き

- ①津波襲来に備えて避難訓練
  - ②津波により被災を受けた漂流者の捜索・救助訓練
  - ③津波による港湾施設の被害や油流出の状況把握のための港湾施設巡視訓練
  - ④海上に油が流出した状況を想定し、ヘリコプターによる油流出範囲の確認及び船舶による油防除訓練
  - ⑤津波による航路等への障害物を潜水士が特定し、起重機船による航路啓開訓練
  - ⑥港湾施設の被災状況を北海道開発局の要請で、被災状況を調査する被災状況調査訓練
  - ⑦護衛艦「ありあけ」から支援物資を避難場所へ輸送する緊急支援物資輸送訓練
- を実施した。

当防災エキスパートは3名が⑥番の被災状況調査訓練に参加し、防災エキスパートリーダーの号令によりエキスパート2名と開発局職員2名によりレベルとテープで岸壁の被災状況を測量した。



防災訓練開会式



被災状況調査訓練

# 北海道開発局防災エキスパート (港湾・空港・漁港)

## ○新規登録者認証式

令和元年12月9日(月)北海道開発局港湾空港部長室において防災エキスパート新規登録者認定式が行われました。今年度は9名の方が港湾空港部幹部立会の中、魚住 聡港湾空港部長より登録通知証の交付を受けました。

なお、今年度6名の方が退任し、防災エキスパート登録者は35名となりました。今後、本体制で活動していくことになります。



新たに防災エキスパートに登録された9名の方々

## ○防災エキスパート研修会

今年度の北海道開発局防災エキスパート研修会は、岩内港および函館港において大規模地震・津波総合防災訓練が実施されたこともあり、12月9日(月)15時30分から札幌第一合同庁舎において防災エキスパート29名が参加して開催されました。

### ・主催者挨拶(魚住 聡港湾空港部長)

日頃から北海道の港湾・空港・漁港整備にあたり、特段のご配慮を賜り、厚く御礼を申し上げますとともに、7月に岩内港、10月に函館港で開催致しました、大規模地震・津波総合防災訓練にご参加いただきありがとうございました。

さて、我が国は地震・津波・台風等の自然災害多発地帯でございます。北海道における地震・津波だけを見ても、平成以降、平成5年の釧路沖地震、北海道南西沖地震、平成6年には北海道東方沖地震、平成15年には十勝沖地震と続き、そして、平成30年に北海道胆振東部地震が発生し、5年に1回程度

は地震災害が発生しています。

北海道胆振東部地震では、北海道開発局の港湾・空港・漁港防災エキスパート制度が、平成18年4月に制定されて以来、初めて発動し、現地に参集していただき、「白山」における入浴・洗濯・給水支援活動において、直轄職員のサポートを行っていただきました。今後も、訓練や研修会にご参加いただき、いつ起こるかわからない災害ではありますが、発生した際には現場に駆けつけ、直轄職員をサポートしていただければ幸いです。

最後になりますが、今回新たに宮部様、秋葉様、柿崎様、鈴木様、小玉様、上野様、佐藤様、竹腰様、若松様、9名の方に防災エキスパートの登録をさせていただきました。是非、皆様の豊富な知見、経験を生かし、大規模災害発生時にはご尽力いただけますようお願いいたします。

### ・港湾空港部からの情報提供

港湾空港部 空港・防災課 防災情報係長寺田卓史様から防災エキスパート制度、制度要綱及び活動報告の説明をしていただきました。

活動報告では7月27日(土)岩内港及び10月27日(日)函館港において実施された大規模地震・津波総合防災訓練の実施とともに2018年北海道胆振東部地震の際、防災エキスパートが直轄職員と共に平成18年制度開始以来、初となる北陸地方整備局所属大型浚渫兼油回収船「白山」による入浴・洗濯・給水等の支援活動を行った旨の報告をしていただきました。

### ・研修講演

防災エキスパートの研修講演は日本データサービス 水工第I部 芳賀 豊様、水工第II部 越智聖志様から2018年北海道胆振東部地震における苫小牧港「東港区」の被害調査方法、対象被害施設及び被害の概要等、詳細な報告をしていただきました。

東港区「南護岸」の被災状況調査ではドローンを用いることにより、計測困難箇所(海上側)、高所(南護岸天端)等の調査が可能となったことからその有効性が報告されました。

また、越智聖志様からは3次元測量データ(3次元レーザースキャナー)により得られた点群データを用いた縦横断測量、縦横断図作成作業等の概要とともに、各作業における課題、困難さについても詳細に説明していただきました。

## 「みなとまち活性化イベントの助成事業」の募集

NPO 法人「北海道みなとの文化振興機構」では、当機構の目的の一つである「港の効果的、効率的利用の促進や港を核としたまちづくりに係る広報事業を支援する」を図るため助成事業の募集を行います。令和2年度の助成事業応募要領は下記のとおりです。

### 助成事業募集要領

#### (1) 応募要件

道内でみなとまちの活性化をめざし企画・実施されるイベント等において、令和2年度に実施予定の本助成を希望する事業とする。

#### (2) 募集期間および応募方法

募集期間は令和2年4月1日(水)から5月7日(木)までとし、助成を希望する団体は必要事項を記入の上、応募様式を提出する。

#### (3) 助成金額

1件当たり助成金額は15万円を限度とし、みなとの活性化の効果の大きいと考えられる数件を選定する。

#### (4) 評価審査委員会の設置

応募された助成希望の事業につて、審査を行う機関として設置する。

評価審査委員会は当 NPO 法人理事長の指名により構成する。

評価審査委員会の事務は当 NPO 法人事務局が行う。

評価審査委員会は本年5月中旬に開催し、助成を希望する事業について審査し、採択する。

審査結果については、5月下旬に郵送で通知する。また、当 NPO 法人のホームページ上で公表する。

#### (5) 助成金の支払い

助成金については、助成を受ける団体等に対し、イベント等の開催の2週間前までに支払う。

#### (6) 助成を受ける団体の義務

活動を実施するにあたって、「NPO 法人北海道みなとの文化振興機構助成」をうけている旨を明示すること。

#### (7) 報告

実施結果については、実施後速やかに報告様式により提出すること。実施写真を2枚以上添付すること。

(8) 応募様式及び報告様式は、当 NPO 法人ホームページを参照願います。

## 「着ぐるみ貸付事業」の紹介 (みなとのマスコット「ぽーとん」くん、「べいくりん」ちゃん)

北海道のみなとのキャラクター「ぽーとん」くん、「べいくりん」ちゃんの着ぐるみは、みなとが担う役割を多くの皆様にご理解いただくとともに、海やみなとに集う皆様が楽しく過ごしていただくお手伝いキャラクターとして制作しました。海の上を自由に謳歌するかもめを題材に「小さな赤ちゃんかもめ」をイメージした可愛い着ぐるみです。

平成11年に1号を制作し、好評を得たことから2号、3号と制作、平成25年に4号を制作、現在4組を保有し皆様にご利用いただいております。

「ぽーとん」くん、「べいくりん」ちゃんは、NPO 法人北海道みなとの文化振興機構が商標登録を行っ

ております。尚、着ぐるみは、有料とさせていただいております。



「ぽーとん」くん・「べいくりん」ちゃん



## 令和2年度 役員・事務局・支部体制

令和2年度「特定非営利法人北海道みなとの文化振興機構」役員・事務局・支部体制について

(敬称略)

### 役員

役職	氏名
会長	栗林定正
理事長	中村信之
理事	岩倉博文
理事	宮崎英樹
理事	高橋喜一
理事	上原泰正
理事	百瀬治
理事	栗田悟
理事	川合紀章
理事	笹島隆彦
理事	眞田仁
理事	大西育子
理事	片石温美
理事	福岡康宣
監事	吉本靖俊
監事	中内勲

### 事務局

役職	氏名
事務局長	福岡康宣
事務局次長	東志郎
事務局次長	市来隆
事務局次長	渡部優
事務局次長	三原一憲
事務局次長	斉藤賢悦
事務局次長	大前豊
事務局次長	高田稔年
事務局次長	秋葉洋一
事務局次長	宮部秀一
事務局次長	渥美洋一
事務局次長	鈴木一行
事務局次長	今宗紀

### 支部

役職	氏名
札幌支部長	石島隆司
札幌支部次長	澤合英治
函館支部長	川村求
函館支部次長	鈴木勝晴
苫小牧支部長	小山良明
苫小牧支部次長	秋葉洋一
釧路支部長	平山裕義
釧路支部次長	本間久雄

### 事務局連絡方法

当機構事務局への連絡は、下記のいずれかをお願いします。

Tel : 011-727-3710 Fax : 011-727-3710 E-mail : bunka-npo@kanchi.or.jp

なお、事務局は、常駐体制でないことから、ご返事を差し上げるまで一週間程お時間をいただくこととございますので、何卒ご了承をお願いします。

また、当機構の活動状況は、ホームページでご覧になることができます。

<http://www.minatobunka-npo.info/>

## 特定非営利活動法人 北海道みなとの文化振興機構

〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17号  
セントラル札幌北ビル5F